

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数					省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
薬学部	薬学科	夜・通信	1 or 2	27	7	73	81	19	
応用生命科学部	応用生命科学科	夜・通信				39	75	13	
	生命産業創造学科	夜・通信				22	51	13	
(備考) ・全学共通科目は1科目開講し、薬学部1単位、応用生命科学部2単位である。 ・応用生命科学科専門科目には教職課程自由科目17単位を含む。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にシラバスが掲載されており、シラバス検索機能に「実務家教員担当科目」のチェックボックスを設定している。この検索機能を利用し、一覧を確認することができる。また、大学ホームページ内に設置したシラバス検索システムにより外部からの確認が可能となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/ シラバス検索システム https://syllabus.nupals.ac.jp/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページ http://www.niigata-inst-st.ac.jp/publicinfo/pdf/yakuinhyougiin.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人社団健進会 理事長	2021/4/1 ~ 2023/3/31	法人経営全般(特に 新潟薬科大学)
非常勤	新潟県健康づくり・スポーツ 医科学センター 長	2021/4/1 ~ 2023/3/31	法人経営全般(特に 新潟薬科大学)
非常勤	新潟工科大学 学長	2021/4/1 ~ 2023/3/31	法人経営全般(特に 新潟工業短期大学)
非常勤	鶴巻克恕法律事務所 弁護士	2021/4/1 ~ 2023/3/31	法人経営全般(特に 新潟医療技術専門 学校)
非常勤	株式会社新潟日報社 顧問	2021/6/1 ~ 2023/5/31	法人経営全般(特に 新潟工業短期大学 及び新潟医療技術 専門学校)
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟薬科大学薬学部
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成に関するチェックリストを用いて、教授会にて教務委員会が作成に関するポイントを、資料に基づき事前に説明した上でシラバスを作成している。また、シラバス作成後は、そのチェックリストに基づき教務委員会が科目ごとの記載事項の適切性をチェックしている。記載事項、公表方法は以下のとおり。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、到達目標、授業計画(授業回、授業項目、授業内容、カリキュラム到達目標番号、授業方式、授業外学習(予習・復習)、担当者)、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先(オフィスアワー、居室)等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポータルシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。毎年度初めのオリエンテーション以降に公表している。なお、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している。また、大学ホームページ内に設置したシラバス検索システムにより学外からの確認が可能となっている。(下記 URL 参照)</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/ ・ シラバス検索システム https://syllabus.nupals.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに科目ごとの成績評価方法・基準、評価割合を記載し、学生に予め示した上で、それに基づいて適正に評価している。授業への出席は授業回の3分の2以上を求め、欠席が多い等、学習意欲が認められない場合は当該科目の単位認定を行わない。</p> <p>他大学出身者からの単位認定の申し出があった場合、修得済み科目のシラバス内容と本学の相当する科目のシラバス内容を教務委員会が精査の上、履修の認定を行なっている。また必要に応じて単位認定試験を実施し、厳格に評価を行なっている。</p> <p>卒業論文については、研究室によってバランスを欠いた成績評価にならないよう、学部共通の「卒業研究に関する指針」を定め各研究室に周知している。また、卒業研究プロセス評価票、発表審査票、論文最終審査票などのルーブリックを用いて、適切な成績評価を実施している。これらは各研究室に周知するとともに学生に対してもオリエンテーション時に周知している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価基準については、「新潟薬科大学薬学部授業科目履修規程」にて、90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と定めている。また、GPAについては、「新潟薬科大学薬学部GPA制度及びCAP制に関する取扱い要項」で以下の通り定めている。学生に対して、毎年度オリエンテーション時に同要項を含む各種規程を掲載した冊子(学生便覧)を配布して、教務委員会による説明を実施し、周知しており、大学ホームページでも公表している(下記URL参照)。

・成績評価基準とGPの関係

評価	評点	GP	評価基準
秀	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分に達成し、特に優れている
優	80点以上90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分に達成し、優れている
良	70点以上80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
可	60点以上70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不可	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない

・GPAの算出方法

【秀の修得単位数×秀のGP(4.0)+優の修得単位数×優のGP(3.0)+良の修得単位数×良のGP(2.0)+可の修得単位数×可のGP(1.0)】÷総履修登録単位数

成績分布状況の把握については、年度末の進級判定、卒業判定の際に各学年の必修科目の合計点を用いて順位付けを実施し(添付書類(3))、全学生の成績状況を教授会で共有している。また、学修指導が必要な学生に対してはアドバイザーによる指導を実施している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/info-learn/
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

「新潟薬科大学薬学部学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を策定し、大学ホームページで公表している(下記URL参照)。また、学生に対して、毎年度オリエンテーション時にディプロマ・ポリシーを含めた各種ポリシーを掲載した冊子(「学生便覧」、「履修ガイド」)を配布し、教務委員会による説明を実施している。

学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、薬学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であることを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて卒業要件(※)を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。

【※卒業要件(令和3年度以降の1年次入学生、及び令和4年度以降の2年次に編入した学生に適用)】

薬学部薬学科 必修科目 174.5 単位
 選択科目 11.5 単位以上
 合計 186 単位以上

卒業の認定に関する方針の公表方法	大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/
------------------	---

学校名	新潟薬科大学応用生命科学部
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>開講する全ての科目について、教務委員会が作成に関するポイントを資料に基づき事前に説明した上でシラバスを作成している。また、シラバスチェックリストに基づき教務委員会が科目ごとの記載事項の適切性をチェックしている。記載事項、公表方法は以下のとおり。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、キーワード、一般目標、到達目標、授業計画(授業回、授業項目、授業内容、授業方式、授業外学習(予習・復習)、担当者)、教科書・参考書、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先(オフィスアワー、居室)等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。毎年度初めのオリエンテーション以降に公表している。なお、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している。また、大学ホームページ内に設置したシラバス検索システムにより学外からの確認が可能となっている。(下記 URL 参照)</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/syllabus/ ・シラバス検索システム https://syllabus.nupals.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに科目ごとの成績評価方法・基準、評価割合を記載し、学生に予め示した上で、それに基づいて適正に評価している。具体的には、各科目の到達目標別に評価方法(定期試験、レポート、成果発表等)を明示し、評価方法ごとの評価割合を示している。レポートの評価については、評価に偏りが生じないように、応用生命科学部レポートルーブリックを作成し、レポートの評価基準について共有化している。また、授業への出席は授業回の3分の2以上を求め、欠席が多い等、学習意欲が認められない場合は当該科目の単位認定を行わない。</p> <p>卒業論文については、研究室によってバランスを欠いた成績評価にならないよう、学部共通の「卒業研究の成績評価について」を定め、卒業研究口頭発表ルーブリック、副査論文審査ルーブリックを作成し、各研究室および学生に対して周知している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価基準については、「応用生命科学部応用生命科学科授業科目履修規程」及び「応用生命科学部生命産業創造学科授業科目履修規程」で90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と定めている。またGPAについては、「新潟薬科大学応用生命科学部GPA制度及びCAP制に関する取扱い要項」で以下の通り定めている。学生に対して、毎年度オリエンテーション時に同要項を含む各種規程を掲載した冊子(学生便覧)を配布して、教務委員会による説明を実施し、周知しており、大学ホームページでも公表している(下記URL参照)。

・成績評価基準とGPの関係

評価	評点	GP	評価基準
秀	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分に達成し、特に優れている
優	80点以上90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分に達成し、優れている
良	70点以上80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
可	60点以上70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不可	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない

・GPAの算出方法

【秀の修得単位数×秀のGP(4.0)+優の修得単位数×優のGP(3.0)+良の修得単位数×良のGP(2.0)+可の修得単位数×可のGP(1.0)】÷総履修登録単位数

成績分布状況の把握については、年度末の進級判定、卒業判定の際に各学年の当該年度GPAを用いて順位付けを実施し(添付書類(3))、全学生の成績状況を教授会で共有している。また、学修指導が必要な学生に対してはアドバイザーによる指導を実施している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/about/info-learn/
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

「新潟薬科大学応用生命科学部学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」を策定し、大学ホームページで公表している(下記URL参照)。また、学生に対して、毎年度オリエンテーション時にディプロマ・ポリシーを含めた各種ポリシーを掲載した冊子(「学生便覧」、「履修ガイド」)を配布し、教務委員会による説明を実施している。

学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、応用生命科学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であることを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて各学科の卒業要件(※)を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。

【※卒業要件(令和4年度1年次入学生より適用)】

応用生命科学科 必修科目74単位、選択科目50単位以上
合計124単位以上
生命産業創造学科 必修科目64単位、選択科目60単位以上
合計124単位以上

卒業の認定に関する方針の公表方法	大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページ http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html
財産目録	学園ホームページ http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html
事業報告書	学園ホームページ http://www.niigata-inst-st.ac.jp/info/zaimu.html
監事による監査報告(書)	学園ホームページ http://www.niigata-inst-st.ac.jp/publicinfo/14.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ(点検・評価) https://www.nupals.ac.jp/about/self-check/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページ(大学認証評価) https://www.nupals.ac.jp/about/certified/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 新潟薬科大学薬学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)
(概要) ◎2021 年度以降入学生用 薬学部は、「実学一体」の精神のもと、薬学に係る専門知識を習得し、医療人に適う倫理観と豊かな人間性を持ち、問題解決能力と実践力を身に付け、医療の進展に資する研究心を有し、地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に貢献する薬剤師を育成することを目的とする。 ◎2020 年度以前入学生用 薬学部は、国民に信頼され、医療に貢献できる高度な薬学を修め、医療人たる崇高な倫理観と豊かな人間性を持ち、地域における人々の健康増進や公衆衛生の向上に貢献するとともに医療の進展に資する研究心を有する薬剤師を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)
(概要) ◎2021 年度以降入学生用 人々の健康で自立した生活を支援し、地域社会に貢献できる薬剤師を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士(薬学)」の学位を授与する。 1. プロフェッショナリズム ・患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、薬剤師として医療を担うための責任感と倫理観をもって行動できる。 ・自らの能力を評価・検証し、生涯学習により常に自己研鑽を図ることができる。 ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。 2. コミュニケーション力 ・他者との間で適切に情報の収集・伝達を行うとともに、互いの立場を尊重し、理解し合える人間関係を構築できる。 3. 薬学関連領域の知識・技能・態度 ・普遍的な教養を身に付けるとともに、薬学の専門的知識・技能・態度を修得する。 4. 薬物療法における実践力 ・患者の病態を理解し、科学的な根拠に基づき、患者個人を尊重した適切で効果的な薬物療法を選択・計画し、安全かつ適確に遂行できる。 5. 問題発見・解決力 ・科学的探究心を備え、基礎、衛生、医療薬学に関わる諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。 6. 地域の保健・医療における貢献力

・医療福祉連携の重要性を理解し、プライマリケアやセルフメディケーションの支援、在宅医療への参画等を通じ、地域における人々の疾病予防、健康・自立に貢献できる。

◎2020 年度以前入学生用

次のような能力を身に付け、所定の単位を修得した者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- 1.医療人たる崇高な倫理観と豊かな人間性をもち、医療に携わる使命感を有していること
- 2.医薬品を理解し、適正使用の礎となる科学力を有していること
- 3.医療福祉連携を推し進め、地域における人々の健康自立を支援する全人的能力（科学力・臨床力・対人力）を有していること
- 4.医療や福祉を取り巻く様々な課題に気付き、解決に導く論理的・科学的能力を有していること
- 5.最新の医療情報の収集等、自己研鑽に努め、生涯にわたって学修する態度・習慣を身に付けていること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/>)

（概要）

◎2021 年度以降入学生用

薬学部では、学修内容をもとに、修学期間を1 学年、2 学年、3 学年から4 学年、5 学年から6 学年の4 期に分け、各期において重視する目標を設定し、それらの段階的な達成により本学が目指す薬剤師への成長を促すカリキュラムを編成する。

第1 期で重視する目標：「能動的学習による汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識を習得し、主体的学習方法を用いて、倫理観及び本学薬学教育カリキュラムを履修していく上で基本的に必要な汎用的能力（コミュニケーション力、問題発見力及び論理的思考力）を培う。また、地域住民の健康・自立に貢献する社会連携教育等を通して、地域貢献に必要な基礎的知識の習得及び情報収集力の向上を図る。

第2 期で重視する目標：「基礎薬学の学習及び医療人としての心構え」

基礎薬学の授業科目を講義形式で開講するのと並行に、演習・実習を実施し、知識の定着を図る。さらに、患者や他職種との交流を通して、自らが一医療人となることを意識させ、そのために求められる態度及び問題解決力を涵養する。また、地域住民の健康・自立に貢献する社会連携教育等を通して、第1 期で培った知識及び情報収集力を結集させるとともに地域貢献に必要な人間性を育成する。

第3 期で重視する目標：「臨床薬学の学習及び知識・技能・態度の統合」

臨床薬学の授業科目を講義・実習形式で開講するのと並行に、主体的学習方法による演習を実施し、基礎薬学の領域を含めた知識・技能・態度を統合させ、薬物療法に必要な人間性及びより専門的な問題解決力を育成する。また、これまでに培った知識・技能・態度と社会連携教育等を通して得た経験を統合させ、他学年の学生との協同により地域貢献・後進指導に必要な人間性を深化させる。

第4 期で重視する目標：「臨床実務の実践及び課題研究による自己研鑽意識の醸成」

薬学共用試験（CBT・OSCE）において知識・技能・態度の評価を受けた後、患者・来局者への応対及び薬剤師に関わる医療業務を経験する臨床実務実習により、臨床における総合的実践力を涵養する。さらに、実務実習での経験をより深化させるために主体的学習方法による演習を実施するのと並行に、薬学の進歩に寄与すべく自ら情報収集、問題発見及び問題解決を行う卒業研究により、これまでに培った知識・技能・態度の総合的な実践力を育

成する。また、これまでの社会連携教育等を通して培った人間性を基盤にして、地域の保健・医療における課題の検証を行い、地域住民に還元することで地域貢献に資する実践力を育成する。これらの総合的実践力育成過程において、自らの能力を評価検証し、自己研鑽する意志を醸成する。

本学薬学教育課程において、根幹をなす学修成果であるプロフェッショナルリズムとは、薬剤師が備えるべき行動規範であり、その行動規範に則り様々な局面に応じて問題を解決しようとする意志である。低学年から高学年に向けて、汎用的問題解決力からより高い専門性が求められる臨床的実践力へと発展させるとともに、倫理観と後進指導等を通して自己成長する力を醸成する。それらの学修成果をポートフォリオとして積み重ねながら、各期におけるパフォーマンス評価を用いた形成的評価により学位授与の方針への達成度を判定し、学位授与の質を保証する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識並びに地域貢献に必要な基礎的知識については、客観試験や論述試験等を用いる。基本的なコミュニケーション力、情報収集・問題発見力、倫理観については、関連する領域科目のパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

第2期

基礎薬学に関する知識の定着については、客観試験や論述試験等を用いる。相手を尊重するコミュニケーション力、問題発見・解決力、倫理観及び人間性の会得については、関連する領域科目のパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

第3期

基礎薬学を含めた臨床薬学に関する知識については、客観試験や論述試験等を用いる。臨床薬学並びに地域への貢献にかかわる問題発見・解決力、倫理観及び人間性の会得については、関連する領域科目のパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価等を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

第4期

薬物療法及び地域貢献の実践力については、臨床実務実習のパフォーマンス評価を用いる。臨床薬学における総合的な実践力については、それを涵養するための科目のパフォーマンス評価等を用いる。問題発見・解決力については、研究課題に取り組む卒業研究のパフォーマンス評価を用いる。それぞれの学修成果を学位授与の方針に示す資質・能力と照合し、達成度を判断する。

◎2020年度以前入学生用

学位授与に要求される能力修得のために、次のような方針でカリキュラムを編成する。

1. 「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤とし、基礎薬学から衛生薬学、医療薬学、臨床薬学に至るまで、学年進行とともに深化するような学習到達目標を設定する。
2. 医療人たる倫理観と豊かな人間性の涵養を促す科目を配置する。
3. 医薬品を理解し、適正使用の礎となるような科学を学修する薬学専門科目を配置する。
4. 人々の健康自立を支援する上で必要な応用科学力や臨床力を修得する総合型授業科目を配置する。
5. 問題発見・問題解決能力を修得する科目を配置する。
6. 医療福祉連携を推し進め、地域における人々の健康自立を支援するための対人力を涵養

<p>する実践的科目を配置する。</p> <p>7.対人力涵養の要となる幅広い視野を育成するための教養系科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/pharmacy/pha-policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>◎2021 年度以降入学生用</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>薬学部が求める学生像は、次のような資質と意欲を有する者である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来、人々の健康自立を支援する医療人・薬学人として社会に貢献したいという強い志と情熱をもつ人 ・医療人として望まれるコミュニケーション能力の素質と豊かな人間性をもつ人 ・自然科学系分野の基礎学力を有し、より高度な専門知識を身に付けようとする強い学習意欲と科学的探求心をもつ人 <p>2. 入学前に修得が望まれる知識・能力</p> <p>高等学校各教科・科目全般について履修すること。主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有するとともに、特に、次のような基礎学力を身に付けておくことを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の基礎的な知識及びそれらを活用する能力 ・数学の基礎的な知識及びそれらを活用する能力 ・国語及び英語の基礎的な文章読解力、表現力及びコミュニケーション能力 <p>◎2020 年度以前入学生用</p> <p>1.求める学生像</p> <p>薬学部が求める学生像は、次のような資質と意欲を有する者である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 将来、人々の健康自立を支援する医療人・薬学人として社会に貢献したいという強い志と情熱をもつ人 (2) 医療人として望まれるコミュニケーション能力の素質と豊かな人間性をもつ人 (3) 自然科学系分野の基礎学力を有し、より高度な専門知識を身に付けようとする強い学習意欲と科学的探求心をもつ人 <p>2.入学前に修得が望まれる知識・能力</p> <p>高等学校各教科・科目全般について履修すること。特に、次のような基礎学力を身に付けておくことを望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 理科の基礎的な知識及びそれらを活用する能力 (2) 数学の基礎的な知識及びそれらを活用する能力 (3) 国語及び英語の基礎的な文章読解力、作文能力及びコミュニケーション能力

<p>学部等名 新潟薬科大学応用生命科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>◎2021 年度以降入学生用</p> <p>応用生命科学部は、「実学一体」の精神のもと、生命科学を応用して社会の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。</p> <p>応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。</p>

生命産業創造学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、経済学及び経営学を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材を育成する。

◎2020 年度以前入学生用

応用生命科学部は、食品、環境、健康などの分野において、生命科学を基盤とした教育研究活動を推進し、当該分野の基本的知識及び専門的知識を備え、国際的、地域的な課題解決に向けた応用力を発揮する有為な人材を育成することを目的とする。

1. 応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学及び食品科学に関わる生命現象の本質を分子レベルで解明し、その応用及び効果的な理科教育を図るための教育研究を通して、対象分野において必要となる知識及び能力を修得した研究者、技術者、次世代を育成する指導者等の専門人材を育成する。
2. 生命産業創造学科は、食品、農環境等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画、開発、経営に優れた専門人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/>)

(概要)

◎2021 年度以降入学生用

応用生命科学科

食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、各コースが設定した以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。

食品科学コース：

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、食品科学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. 食品科学関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と食品科学における専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、食品科学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・食品科学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

バイオテクノロジーコース：

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. バイオテクノロジー関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能とバイオテクノロジーにおける専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、バイオテクノロジーを取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・バイオテクノロジー関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

生命環境化学コース：

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、生命化学及び環境化学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. 生命環境化学関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と生命化学及び環境化学における専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、生命化学・環境化学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・生命化学及び環境化学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

理科教職コース：

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、中等教育における理科教員としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。

- ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
- 2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
- 3. 生命科学を中心とした理科の中等教育に関する知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と理科教育における専門的知識・技能を修得する。
- 4. 問題発見・解決力
 - ・理科教育を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
- 5. 地域貢献力
 - ・理科教育における諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の学校の発展に貢献できる。

生命産業創造学科

食品、農業、環境及び健康等の産業において、経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、経済学・経営学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. 経済学・経営学関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と経済学・経営学関連領域における専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、経済学・経営学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・経済学・経営学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

©2020 年度以前入学生用

応用生命科学科

応用生命科学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 生命を尊重する心、他人を思いやる心などの豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共感の累積をめざすコミュニケーション能力を有する。
2. バイオ工学・環境科学・食品科学を包括する生命科学分野、理科教育分野の抱える課題を探究し解決するために、高度な知識・技能を備え、それらを応用できる能力を有する。
3. 数量的スキル及び情報リテラシーを身に付け、各種情報を収集、分析して適正に判断し、活用できる能力を有する。

4. 修得した科学的知識や洞察力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、理解を得るための優れたプレゼンテーションができる能力を有する。
5. 地域的視点と国際的視野を持ち、学修経験を総合的に活用することで、地域及び国際社会の諸問題の本質を見極めながら課題を探究する能力と課題を解決する能力を有する。

生命産業創造学科

生命産業創造学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

1. 生命を尊重する心、他人を思いやる心を持つ豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共感の累積をめざすコミュニケーション能力を有する。
2. 生命・食料・農業・環境に関わる産業領域の課題に取り組む、基盤となる幅広い知識と教養を備え、柔軟な思考力を有する。
3. 農林水産業及び食品・環境・生命産業の事業の経営課題に取り組むための広い視野と積極的な意欲を持てる能力を有する。
4. ICT*を用いて情報を収集・分析し、適正に判断して活用できる能力を有する。
5. 修得した科学的知識や洞察力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、プレゼンテーションできる能力を有する。
6. 地域社会と国際社会の変化に注視し、広い視野を持って積極的に活躍しようとする意欲を持続できる能力を有する。

*ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/>)

(概要)

©2021 年度以降入学生用

応用生命科学科

応用生命科学科では、学修内容をもとに修学期間を 1 学年から 2 学年前期、2 学年後期から 3 学年前期、3 学年後期から 4 学年の 3 期に分け、各期において重視する目標を設定し、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、環境に関わる科学を応用して地域社会に貢献できる人材への成長を促すカリキュラム、並びに、生命科学を中心とした理科中等教育に造詣が深い教員へと成長を促すカリキュラムを編成する。

食品科学コース：

第 1 期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第 2 期で重視する目標：「食品科学関連領域における知識・技能の修得」

食品科学関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならず PBL (problem-based learning) やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第 3 期で重視する目標：「食品科学関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、食品科学関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

食品科学関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

バイオテクノロジーコース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「バイオテクノロジー関連領域における知識・技能の修得」

バイオテクノロジー関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならず PBL (problem-based learning) やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「バイオテクノロジー関連領域における専門知識・技能の統合と

実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、バイオテクノロジー関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

バイオテクノロジー関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

生命環境化学コース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「生命環境化学関連領域における知識・技能の修得」

生命環境化学関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「生命環境化学関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、生命環境化学関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

生命環境化学関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

理科教職コース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「生命科学を中心とした理科中等教育に関する知識・技能の修得」

理科中等教育関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「理科中等教育関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、理科中等教育関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、教育実習と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

理科中等教育関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、教育実習と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

生命産業創造学科

生命産業創造学科では、学修内容をもとに修学期間を1学年から2学年前期、2学年後期から3学年前期、3学年後期から4学年の3期に分け、各期において重視する目標を設定し、生命科学に関わる産業において経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材への成長を促すカリキュラムを編成する。

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命に関わる産業の基盤となる知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「経済学・経営学関連領域における知識・技能の修得」
経済学・経営学関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL (problem-based learning) やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「経済学・経営学関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、経済学及び経営学領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命に関わる産業の基盤となる知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

経済学・経営学関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

©2020 年度以前入学生用

応用生命科学科

応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学、食品科学及び理科教育に関わる現象の本質を探究し、その成果を広く社会の課題に適用して解決を図ることができる専門人材を育成することを目的に教育を行う。

1. 地域的視点と国際的視野を持ち、豊かな人間性と倫理観を育み、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付けるため、教養科目として、語学系、自然科学系、社会・人文科学系、キャリア系の科目を配置する。
2. 情報活用力を育成する情報リテラシーに関する科目、及び数量的指標を用いて科学的に

理解する能力を養うための科目を配置する。

- 3.生命科学及び理科教育分野の高度な基礎理論から専門的知識・技能、さらには応用技術まで幅広く理解するための専門科目（バイオ工学、環境科学、食品科学、理科教育系）を配置する。
- 4.座学のみならず ICT*を活用した反転授業や実験講義、SGD**、討論等の授業形態をとり、主体的・対話的に学ぶ学習を進める。
- 5.事象や物質の本質を洞察し論理的に考察して表現する能力を身に付けるために、実験・実習、演習科目等を配置する。
- 6.1年次から、教育実習や地域社会におけるボランティア活動等を授業として取り上げ、実践的な学習を通して社会性を身に付け、学生自ら対人力及び課題解決能力を涵養することができる教育を進める。
- 7.修得した知識を総合的に活用し、課題を自ら模索し探究する過程を経て、継続的に課題を解決できる能力を培うための科目「卒業研究」を配置する。

教育成果の実証的な把握・評価に努め、アドミッション・ポリシーに基づき受け入れた入学者がディプロマ・ポリシーを達成するために、より効果的な教育を行えるようカリキュラムの改善を行う。

*ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

**SGD：Small Group Discussion の略。小グループ討議

生命産業創造学科

生命産業創造学科は、食品・農環境等の生命現象に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野に経済学及び経営学を駆使することで、企画・開発・経営・販売に関する知識や能力に優れた専門人材を育成することを目的に教育を行う。

- 1.豊かな人間性と倫理観を育み、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付けるため、自然科学分野と社会・人文科学分野の文理融合型の科目を配置する。
- 2.1年次では、主に幅広い教養と語学力を養うための科目を配置し、2年次では専門領域への基礎的な科目を配置する。3年次では専門領域の科目を重点的に配置するとともに、研究室（ゼミ）に配属して教員とのコミュニケーションを密接にし、修得した知識を総合的に活用して自ら課題を解決できる能力を培うための科目「卒業研究」を配置する。
- 3.情報活用力を育成する情報リテラシーに関する科目、及び数量的指標を用いて科学的に理解する能力を養うための科目を配置する。
- 4.座学のみならず ICT*を活用した反転授業や SGD**、討論等の授業形態をとり、主体的・対話的に学ぶ学習を進める。
- 5.事象や物質の本質を洞察し論理的に考察して表現する能力を身に付けるために、実習、演習科目等を配置する。
- 6.地域社会におけるボランティア活動や現場調査等を授業として取り上げ、実践的な学習を通して社会観を身に付け、学生自ら対人力及び課題解決能力を涵養することができる教育を進める。

教育成果の実証的な把握・評価に努め、アドミッション・ポリシーに基づき受け入れた入学者がディプロマ・ポリシーを達成するために、より効果的な教育を行えるようカリキュラムの改善を行う。

*ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

**SGD：Small Group Discussion の略。小グループ討議

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ
<https://www.nupals.ac.jp/faculty/applied/app-policy/>）

（概要）

◎2021 年度以降入学生用

応用生命科学科

1. 求める学生像

食品、農業、環境、健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用することで、技術・研究に携わる人材として活躍し、健康で自立した社会の実現に貢献したいと願っている人

また、「理科の楽しさを伝えることのできる有為な教育者」として、高等学校や中学校等の教育現場で活躍したいと願っている人

2. 入学前に修得が望まれる知識・能力

高等学校各教科・科目全般について履修すること。主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有するとともに、特に、次のような基礎学力を身に付けておくことを望みます。

- ・理科の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- ・数学の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- ・国語及び英語の基礎的な文章読解力、表現力及びコミュニケーション能力

生命産業創造学科

1. 求める学生像

食品、農業、環境、健康等の生命に関わる産業において、経済学及び経営学を中心とした専門知識を理解し応用することで、企画・開発・経営・販売に携わる人材として活躍し、健康で自立した社会の実現に貢献したいと願っている人

2. 入学前に修得が望まれる知識・能力

高等学校各教科・科目全般について履修すること。主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有するとともに、特に、次のような基礎学力を身に付けておくことを望みます。

- ・社会科学の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- ・自然科学の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- ・国語及び英語の基礎的な文章読解力、表現力及びコミュニケーション能力

◎2020 年度以前入学生用

応用生命科学科

1. 求める学生像

バイオ工学、環境科学、食品科学などの分野で生命科学の知識、技術を身に付け、社会で活躍したいと願っている人

また、「理科の楽しさを伝えることのできる有為な教育者」として、高等学校や中学校などの教育現場で活躍したいと願っている人

2. 入学前に修得が望まれる知識・能力

- (1) 理科と数学の基礎的な知識及びそれらに応用する能力
- (2) 英語の基礎的な文章読解力及び表現力
- (3) コミュニケーション能力

生命産業創造学科

1. 求める学生像

食品、農環境などに関わる産業分野で企画・開発・経営・販売を担える専門人材として社会で活躍したいと願っている人

2. 入学前に修得が望まれる知識・能力

- (1) 国語、英語の基礎的な文章読解力及び表現力

- (2) 自然科学及び社会科学の基礎知識
- (3) コミュニケーション能力

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ（教育上の基礎的な情報）
<https://www.nupals.ac.jp/about/info-basis/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
薬学部	—	20人	12人	0人	6人	3人	41人
応用生命科学部	—	14人	8人	1人	5人	2人	30人
附置研究所	—	1人	1人	0人	1人	1人	4人
その他	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		46人					47人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大学ホームページ https://gyouseki.nupals.ac.jp/nuphp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	180人	94人	52.2%	1080人	730人	67.5%	若干名	1人
応用生命科学部	180人	123人	68.3%	720人	512人	71.1%	若干名	0人
合計	360人	217人	60.2%	1800人	1242人	69.0%	人	1人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	136人 (100%)	1人 (0.73%)	87人 (63.97%)	48人 (35.29%)
応用生命科学部	114人 (100%)	12人 (10.52%)	99人 (86.84%)	3人 (2.63%)
合計	250人 (100%)	13人 (5.2%)	186人 (74.4%)	51人 (20.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p><薬学部></p> <p>開講する全ての授業科目について、以下の内容を含んだシラバスを作成し、公表している。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、到達目標、授業計画（授業回、授業項目、授業内容、カリキュラム到達目標番号、授業方式、授業外学習（予習・復習）、担当者）、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先（オフィスアワー、居室）等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。年度初めのオリエンテーション以降に公表している。なお、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している。また、大学ホームページ内に設置したシラバス検索システムにより学外からの確認が可能となっている。</p> <p><応用生命科学部></p> <p>開講する全ての授業科目について、以下の内容を含んだシラバスを作成し、公表している。</p> <p>【記載事項】</p> <p>授業概要、キーワード、一般目標、到達目標、授業計画（授業回、授業項目、授業内容、授業方式、授業外学習（予習・復習）、担当者）、教科書・参考書、公開資料、成績評価方法・基準、課題に対するフィードバック方法、担当者連絡先（オフィスアワー、居室）等</p> <p>【公表方法】</p> <p>学生及び教職員が利用するポートフォリオシステム「Cyber-NUPALS」にて閲覧可能。年度初めのオリエンテーション以降に公表している。なお、希望者には冊子での配布を行っており、大学ホームページにおいても公開している。また、大学ホームページ内に設置したシラバス検索システムにより学外からの確認が可能となっている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p><薬学部></p> <p>学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、薬学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であるかを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて卒業要件を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。</p>
--

<応用生命科学部> 学位授与に必要な学生が身に付けるべき能力ごとに、応用生命科学部全体の教育課程において、どの科目の修得が必要であることを示した「カリキュラムマップ」を策定し公表している。当該科目の成績評価及び卒業研究の成績評価を踏まえ、教授会にて各学科の卒業要件を満たしていることを確認の上、卒業判定を厳格に実施している。最終的な学位授与判定は新潟薬科大学学則に基づき学長が行なっている。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
応用生命科学部	応用生命科学科	124 単位	有・無	単位
	生命産業創造学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ（教育上の基礎的な情報）
<https://www.nupals.ac.jp/about/info-basis/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	1,200,000 円	300,000 円	900,000 円	施設設備資金
応用生命 科学部	応用生命 科学科	900,000 円	300,000 円	(初年度) 400,000 円 (次年度以降) 600,000 円	施設設備資金
	生命産業 創造学科	800,000 円	300,000 円	(初年度) 200,000 円 (次年度以降) 400,000 円	施設設備資金

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生が、勉学上の疑問点・問題点、生活面での悩みなど気軽に相談できるようにアドバイザー制度を設けている。入学後、学生はグループ編成され、専任教員がグループのアドバイザー教員として担当する。グループに一人の教員が担当することで、丁寧な修学指導を行っている。また、薬学部では上記制度に加え、薬学教育センターを設置し、以下の活動を基本として、薬学部生の学習を総合的にサポートしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学前教育の充実 2. 低学年のリメディアル教育（薬学につながる補完教育等）の強化 3. 質の高い薬剤師養成のための学習支援及び学生の実情に合わせた個別化指導 4. 薬剤師国家試験に向けた薬学総合教育の推進と企画・実践 5. 本学の特色ある薬学教育の企画と実践
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>各学部のキャリア支援委員会が主体となり、低学年次から定期的にキャリアガイダンスを実施している。また、求人情報をWEBで閲覧できる就職支援システムを導入している。キャリア支援課では、履歴書・面接指導や進路相談など個別に対応している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生支援総合センターに学生相談部門を設置し、心身ともに健康で快適な学生生活を送ることができるように専門の医療スタッフを配置している。心の悩みは、臨床心理士（カウンセラー）が対応し、日々の健康に関しては、学校医、保健師、養護教諭（看護師）が連携してサポートを行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページ（教育情報の公表）</p> <p>https://www.nupals.ac.jp/about/</p>
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F115310105177
学校名	新潟薬科大学
設置者名	学校法人新潟科学技術学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		105人	104人	209人
内 訳	第Ⅰ区分	64人	69人	
	第Ⅱ区分	28人	24人	
	第Ⅲ区分	13人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				209人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	-		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	-		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。